

R3「学力向上対策3つの提言」推進拠点校の取組 及び 成果と課題 ①

臼杵市立西中学校



重点的取組 【提言2】

学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築

<学力向上に向けて重点的取組に上げた理由> 予測困難な時代や教師の大量退職時代を迎え、多様化する教育課題への対応が求められる中で、教師の指導力による生徒の学力の差をうまないよう「人材(財)育成学校」をめざして取り組んでいるため。

取組の具体

1 教科主任のリーダーシップによる組織的な教科部会

(1)教科主任のリーダーシップ

- ①教材研究、学習評価、単元末テスト、ICT活用
- ②各種学力調査やアンケートの分析と対応
- ③教科部会ノートの活用
年度を跨いだ引き継ぎ



(2)評価のフォーマット版を作成

- ①3観点評価シート: 新しい3つの観点の評価について、生徒に授業で説明するためのシートを全教科で統一し「指導と評価の一体化」をめざす
- ②学びのあしあと: 単元プランと連動し、毎時間の振り返りを記入する

2 教員育成指標に基づくML研修・SD研修

(1)ML研修 Middle Leader

充実・深化期を迎えるML(3提言推進拠点校教員・習熟度別指導推進教員)を対象に、指導教諭による人材育成研修を行う(毎週金曜5.6限)

- ①学校課題を情報共有して問題解決策を検討②最新の情報を収集し、旧態依然・前例踏襲から意識改革③同僚への指導・助言④実効性のあるOJT等

(2)SD研修 Self Development

基礎形成期(教職経験10年以下の若手教員9名)を対象に、MLによる人材育成研を計画的に行う ①授業改善②生徒指導③学級経営等

(3)校内研究に臼杵市SD研修や臼杵市教育研究協議会部会を受け入れ

市内の中学校4校から校内研究に参加
臼杵市授業力向上アドバイザーの助言有り



成果と課題

- タテ持ちの教科部会により、若手の教科指導力が向上し、評価規準及び評価基準が統一できている。
- 教科部会での教材研究や学習プリント共有等により働き方改革につながる。
- 校内研究体制や組織改革を行うことで教科主任等が効果的に機能する学校運営体制が構築でき、学校マネジメントが深化した。
- 学校評価アンケートより(保護者回答)・先生たちは、学力向上のためわかりやすい授業をするなど授業改善に努めている 91%
- (教職員回答)・教科部会等により、授業について同僚に相談できる92%・研究推進部を中心に組織的な校内研究が行われた100%
- 各種学力調査や質問紙の結果に基づき、効率的・効果的な学力向上対策が推進されるようになり、学力調査結果が上昇した。

項目	回答内容
真面目な方	授業内容が充実している、先生が熱心に取り組んでいる、生徒のやる気も高い。
真面目な方	授業内容が充実している、先生が熱心に取り組んでいる、生徒のやる気も高い。
真面目な方	授業内容が充実している、先生が熱心に取り組んでいる、生徒のやる気も高い。

「なぜ、今『3提言』?」
なぜ人材育成? 世代によってとらえ方が大きく違う

△教科部会の必要性は世代によってとらえ方が違うため、未来を見据えた人材育成の必然性を周知すること

【提言3】

「生徒と共に創る授業」の推進

取組の具体

1 「生徒と共に創る授業アンケート」(年4回)による短期の検証・改善サイクルの構築

- (1) 学習委員会での数値分析と改善対策の検討
SDGs4「質の高い教育をみんなに」をめざす
- (2) 教科部会で結果を分析し、授業改善目標を設定
授業改善月間でアドバイスシートを活用
- (3) クラス別教科担当者会
アンケート結果から学級を絞り、校内研究で効果のある指導法を共有しチームで改善に向かう

視覚化



2 学びに向かう学習集団づくり

- (1) 西中学習目標と授業規律5ヶ条を毎月振り返り
アクティブリスニングによる対話的な学びの実現
- (2) 2分前ステップアップ活動 教科係が出席
- (3) 生徒会による1人1台タブレットの使用ルール作成

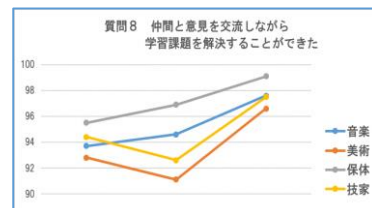
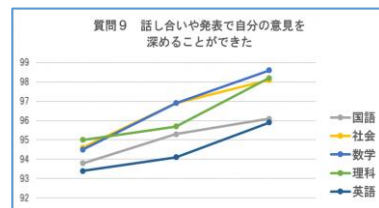


成果と課題



○「生徒と共に創る授業アンケート」の各項目の数値が伸びている。特に「話し合いや発表で自分の意見を深めることができた」の項目は12月に全教科95%を超えた。生徒も教師も短期に振り返って改善しようとするサイクルができた。

- ・生徒:「話し合いが多い授業の方が、考えが深まり、集中して学びに向かう」「アクティブリスニングを意識して意見が言いやすいよう呼びかけよう」
- ・教師:クラス別教科担当者会で、担任の想いを聞いたり、UDの視点で改善できることがあり、授業改善につながった。



【提言1】

学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底

取組の具体



1 生徒の姿で検証・改善する授業研究

- (1) 教科の壁を越えた授業研究 (2) タブレットの効果的な活用
- (3) 板書プレートと3観点評価プレートの統一
(課題・めあて・まとめ・振り返り・授業の流れ)(知識・技能、思考判断表現、学びに向かう力)
- (4) ThankYouチェックシートを活用した全員授業研究
 - ① 誰一人取り残さないよう部会で作成し、ねらいと具体的な評価規準を設定
 - ② 特別な支援を必要とする生徒やつまづきの顕著な生徒への配慮や手立てを必ず位置付ける

2 習熟に応じた指導

- (1) 習熟度別指導推進教員(英)の公開授業からの学びを広げる

成果と課題

○学校評価アンケート(教職員回答)

- ・新大分スタンダードに基づき「めあて・課題・まとめ・振り返り」を設定している 100%
- ・習熟に応じてきめ細かい指導をしている 73%
- ・特別支援・UDの視点を大切にした教育活動を行っている 88.5%

○単元プランに3観点をバランスよく位置付け、板書に評価プレートを置くことによって、1時間の振り返りを想定した授業を組み立てるようになった。

△持続可能な人材育成をめざす「守・破・離」～形骸化を防ぎ手段が目的にならないよう生徒の姿で検証・改善する。教師の「学び続ける不断の努力」のための環境や予算